



▲東日本大震災から11年

今年の慰霊祭会場の若林区文化センターで献花後、若林区役所南側にある「3.11不忘の碑(わすれぬひのいし)」へ。震災時犠牲になった区役所職員2名の方々へ合掌。14:46は深沼海岸で当時の荒涼に思いを馳せました。災害は忘れた頃にやってくる。平時からの防災減災への意識を持ち、備えを行うとともに、政治家として原点に立ち返り、市民の皆様の声伝えていく決意を新たにしました。



▲地域スポーツ交流会に参加

仙台市では今後10年間のスポーツ施策について総合的な推進を図るための基本的な計画として「仙台市スポーツ推進計画 2022-2031」を策定します。今後も施設の改修や利便性について、皆様からお話を伺うとともに、インクルーシブ施設等、多様化するライフスタイルの中、スポーツを通じて心身ともに健康で豊かな生活が送れるよう市へ提言してまいります。



▲冒険遊び場に伺いました

インターンの学生とともに仙台市の遊び場調査へ。NPO法人冒険あそび場の根本さんからヒアリング。自分の責任で自由に遊び！をテーマに活動しており、遊びを通して生きる力を育むこと、自分の身近な遊び場環境を充実させていくのが大切とお話頂きました。行政ができない発想を民間の皆さんから生み出してもらうのと同じく、しっかりと支援できる体制を整えていく。子どもが責任をもって自由に遊べる環境づくり力を入れてまいります。



▲3.16地震への対応

3月16日深夜に福島県沖を震源とする地震がありました。一時は津波避難広報も出されぬ夜を過ごされたと思います。発災後家族の安全を確認後に地味の見回り、被災箇所を確認、避難所開設準備、若林区役所への情報提供等を行い、明暗も登校する児童への声かけ、現場での被害調査と駆け回りました。課題はありましたが、これまでの準備が功を奏し、しっかりと支援できる体制を整える充実や地域での避難訓練の実施などしっかりと防災レジリエンスを高めてまいります。

ウォーミングアップレーン 改修工事を実現！

かねてよりご要望があった仙台市陸上競技場外周にある「ウォーミングアップレーン」の改修工事が実現しました。これまでは雨が降るとレーンの中に水が入り、レーンが浮き上がりアスファルトにけがをしかねない状況でした。1月下旬より工事が始まり、3月に完成しました。新たなレーンはウレタン舗装で国際基準を満たし、ランナーに優しいレーンへと生まれ変わりました。



早期の白線設置とカラー帯の敷設と道路改修を要望！

南染師町から八軒中学校の縦のラインの白線がすっかり見えなくなっており、区役所へ相談し、白線約500mの工事を行っていただきました。令和4年度中に再カラー舗装が行われます。また、大きな車が通るたびに揺れるといった声もあり、道路改修も要望しました。



議会内委員会活動



広報委員会は概ね月に1度開催されます。副委員長として委員長を支える立場です。現在は6月定例会から使用される新しい市議会広報ポスターの選定コンペや、様々な媒体による市議会広報や広告の効果検証、市議会の様子が中継される映像の二次利用などが議論されています。

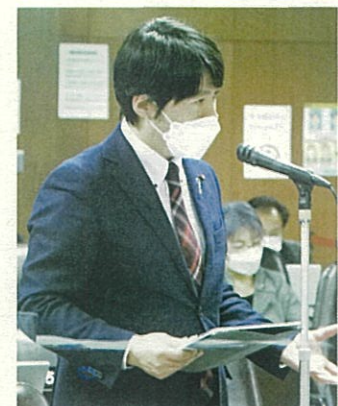
議会開会中に開催される議会運営委員会。私も会派から委員として参加しています。議会内の議事運営が円滑に進むよう事前に各会派の意見を確認し、議会が滞りなく進むよう取り組んでいます。また、議会内における様々なルールもこの議会運営委員会で決められています。

【新型コロナ】経済・生活面の相談窓口
◆心の相談窓口
・仙台市在住者 022-265-2229
・仙台市以外 0229-23-0302
◆差別や誹謗中傷被害 090-1552-1477
◆出産・妊婦生活の不安 090-1060-2232

お気軽にご相談
inotaka35office/ @inotaka0924 1983takahiroinomata
SNSでも情報発信中です！

猪又 隆広 Start 仙台市政報告書 vol.010
第10号 発行：猪又隆広事務所 〒984-0816
TEL.022-216-3351 FAX.022-216-3352

新たな仙台市の第一歩へ！新年度予算で市民生活を前へ！



仙台市議会議員 猪又 隆広

御挨拶
新たな年度がスタートし、1ヶ月が経過しました。それぞれが新たなステージの中、悩みながらも一步一步前に進み、着実に成長の芽が出てきていること存じます。新年度より仙台市では2つの柱をもとに様々な事業がスタートします。まずは、第1の柱「世界に誇る魅力と活力を生み出すまちづくり」では、次世代放射光施設の整備によるイノベーション創出、デジタル活用によるスマートシティの実現、スマート農業の推進、全国都市緑化仙台フェアの開催準備、東部沿岸エリアの活性化等。第2の柱では、「多様な視点から一人ひとりの活躍を支えるまちづくり」では、新生児誕生祝福事業、若年層戸建て住宅取得助成、子どもアドボケート派遣事業、GIGAスクール推進、不登校支援、ヤングケアラー相談窓口設置、町内会応援やスポーツを核とした地域コミュニティの活性化等々です。いずれにしても、新型コロナウイルス感染症と共存しつつ、しっかりと経済を前に進めていかねばなりません。私自身も引き続き市政全体を俯瞰しつつ、若林区の発展、市民の皆様のためにしっかりと汗をかいていきたいと思っております。

市政あれこれ：新型コロナウイルス感染症対策(4月25日現在)

事業復活支援金と仙台市中小企業等事業復活支援給付金
①「事業復活支援金」 締切間近お急ぎください 5月31日(火)まで
②仙台市の「事業復活支援給付金」 7月29日(金)まで
給付対象
給付額
相談窓口

申請期間・申請方法・お問い合わせ
0120-789-140
03-6834-7593
不正受給は犯罪です！



①[フードバンク、フードドライブについて]

\*フードバンクとは？\*

安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄付していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動。

\*フードドライブとは？\*

各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめてフードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動をいう。

Q: 本市に所在を置く団体で「フードバンク仙台」がある。

コロナ禍において、経済的に困窮する方への食糧支援だけでなく、生活困窮を改善するための情報提供や他の支援機関や行政へつなぐといったアウトリーチ的な役割も担っている。運営団体にヒアリングをしたところ、寄附してもらった食料だけでは足りず、発足から1年半足らずで、すでに400万円分の食料品を購入している実態がある。新年度、フードバンク活動支援助成金(上限100万円)が計上されているが、今後の継続的な支援についての考えを伺う。



A: フードバンク活動支援助成金は、本市のフードドライブ事業に協力するなど、食品ロス削減に積極的に取り組み、かつ食料の確保に困難を迎えた生活困窮世帯等に、食糧提供を行うフードバンク活動に対し、1団体につき100万円を上限に助成するものである。補助対象経費については対象事務所の家賃借料、通信費、自立支援の人員の人件費などである。(家庭ごみ減量課長)

Q: フードバンクの活動の目的は自立支援と食品ロスの削減と認識している。特に食品ロスの削減に限って見れば、フードバンク活動の実態とマッチしていない現状も見受けられる。



本市の一般廃棄物処理基本計画の中で、食品ロスの削減の項の中に、令和元年度の実態調査では、本市家庭から出る生ごみに占める食品ロスの割合は全体の34.5%で量にすると約1.8トンにもなる。内、まったく手つかずの食品が約3千トンにもなる。フードバンク仙台で提供される食糧は量にすると年間約50~60トン。廃棄される量の2%にも満たない。このことをどのように考えるか。

A: 家庭において多くの食品ロスが発生している現状があり、その削減にはまず計画的な食品購入や食べ残しをしないことなど市民の皆様に実践していただくことが重要と考えている。それでも余った未利用食品、贈答品でなかなか消費できない未利用食品については、フードドライブに提供していただくよう更なる周知を図っていきたく考えている。(家庭ごみ減量課長)

Q: 本市でもフードドライブ事業を行っている。フードドライブのボックス設置個所が少しずつ増え、比例して回収量は増えているが、地域的な偏りがある。また、地域への浸透度とともに企業へもっと周知すべきと考えるがいかがか。



A: フードドライブ事業の町内会等地域への周知については、クリーン仙台推進員や町内会長の皆さんに送付している、仙台メビウス通信で事業の紹介をしたほか市民センターや区役所での配布また、市政だよりでの記事掲載などを行っている。今後、これまでの取り組みに加え、町内会への回収用チラシの作成・配布、連合町内会長や民生委員などが出席される会合などの情報提供など行い、関係部局とも連携しながら更なる周知に取り組んでまいります。(家庭ごみ減量課長)

Q: フードドライブ事業について、在仙のプロスポーツでの協力を得る努力や子どもたちへの教育的な理解も深めるべきだ。多くの市民の皆さんにフードドライブ活動を理解してもらうとともにフードバンク活動に自分自身も関わっている、携わっているという思いを持っていただくことが重要。新年度は倍の50カ所を目標にするなど具体的な数値目標を示すべきと考えるがいかがか。



A: フードドライブ事業につきまして、BOXの設置から食品の運搬に関して、多くの民間事業者のご協力をいただきながら、充実を図ってきたところである。これまでの取り組みを踏まえると、新年度において直ちに倍増というのはハードルが高いが、引き続き関係部局とも連携しながら、協力事業者を募るとともに、町内会等の皆様への周知にも積極的に取り組み、本市のフードドライブ活動がさらに広がるように取り組んでまいります。(環境局長)



市民教育常任委員会から〈市立学校のトイレ洋式化の現状〉

先日、市立小学校に今年度から入学した児童のお母さんから相談がありました。「仙台市の学校のトイレはなぜ洋式化が進んでいないのでしょうか。保育園や幼稚園はほとんどが洋式になっています。9つある女子トイレの便器のうち洋式は1つだけのため洋式トイレに列を作り、待っているうちに休み時間が終わって我慢している子もいます。」さっそくご相談をいただいた学校に訪問し、現地調査を行い学校現場からのヒアリングをもとに常任委員会で質問しました。

文科科学省が行なった公立学校施設でのトイレ設備の状況調査において、仙台市は令和2年9月1日時点で洋式化率37.5%でした。これは政令市中ワースト2位という結果です。

学校の施設改修はお金がかかります。ただ、洋式化が進んでいる自治体では様々な知恵を絞っています。民間資金の活用やふるさと納税制度を活用した取り組みを行っています。今後も市立学校トイレの洋式化に全力で取り組んでまいります！



▲市立小学校の男子トイレ



▲市立小学校の女子トイレ

②[中心商店街以外の商店街支援について]

Q: コロナ禍で行動が制限される中、中心部以外の商店街でも様々な知識をしばり様々な独自イベントを開催し、コロナ禍で減少している買い物客に少しでも戻ってきてもらおう努力をしていた。その一つに商店街連携がある。昨年の10月には、愛宕商栄会と河原町商店街振興組合がタッグを組んで、「なぞときQUEST」というイベントを開催した。まち歩きイベントの一端で、参加店舗のお店の前にクイズを掲げ、4択の中から選んでもらい、WEBから回答し、まわった店舗数に応じてもらえる商品のグレードも変わってくるという内容。これからは単独で自分の商店街だけ儲ければいいという時代ではない。こういったジョイントした形で相互連携の取り組みをすすめる商店街をもっと支援すべき。商店街連携の取り組みの重要性と支援について伺う。



A: 隣接する3つの商店街が連携して町ゼミを開催した事例もあるが、相互に連携して取り組むことで商店街同士の交流が活発になり、その後のイベントや商品券事業の共同実施につながるなど、様々な相乗効果があったと伺っている。商店街が

連携し魅力を高める取り組みは売上向上の面のみならず、地域の活性化にもつながることが期待できますことから、今後も様々な支援面も紹介しながら商店街の連携を後押ししていきたい。(地域産業支援課長)

Q: 疲弊した中心部以外の商店街やお店は本市にとって財産。昨年は商店街ごとの七夕飾りを掲出した商店街もあり、少しずつ町にも賑わいができた。今回のデジタルを活用した支援をもとに、これまで足を運ばなかったようなお店や商店街を回遊してもらうことで、市内全体が潤うような取り組みを期待している。アフターコロナを見据えた決意を伺う。

A: コロナ化で実施してきた、商品券発行支援事業によると、地域住人の皆様にとっても改めて地元のお店や地域の良さを見直すきっかけになったと思う。また、本事業を通じて新たな商店街が立ち上がるなど地域の活性化にもつながっている。地域の賑わいづくりには商店街の活性化が欠かせないものと認識している。今後、身近にある地域の商店街やお店が魅力を高め、ますます利用できるよう、新年度買い物促進キャンペーンをはじめ、各種の支援策も活用しながら商店街の活性化をさらに後押ししていきたい。(経済局長)

③[陸奥国分寺と寺社を活用したまちづくりについて]

Q: 741年に陸奥国分寺が建立されるきっかけとなった739年の天然痘の疫病による社会不安や869年の貞観大地震からの震災復興など、疫病・復興と現在に連がるものを感じる。その後、頼朝の奥州侵攻などもあり一度焼失しましたが、慶長10年(1605年)に仙台藩祖伊達政宗公が国分寺の再興を願い、その2年後の1607年に現在の陸奥国分寺薬師堂が完成している。陸奥国分寺薬師堂は、現存する仙台最古の木造建築物の一つであり、国指定の重要文化財でもある。これまで史跡整備を本市でも進めてきたがどういった整備をこれまで行ってきたのか伺う。



よう礎石などを置く、遺構表示を行った。平成24年からは史跡地内にある国の重要文化財、陸奥国分寺薬師堂など、複数の建造物を回遊するための歩道や広場を整備し、平成29年に史跡陸奥国分寺尼寺跡ガイダンス施設が開館したところである。(文化財課長)

Q: 新年度は、ガイダンス施設開館5年また陸奥国分寺跡が史跡として指定されて100年、さらに伊達政宗公が陸奥国分寺薬師堂を建立してから415年の節目となる。そのような節目の年に、「全国国分寺サミット」がこの仙台で開催される。概要を伺う。

A: 全国国分寺サミットは、国分寺跡の所在する自治体が集まり、国分寺跡の保存活用等について情報交換を行うと共に地域の魅力の1つとして情報発信することなどを目的に平成12年から断続的に開かれており、これまで11回の開催実績がある。陸奥国分寺が史跡指定100年という節目の年に当たることから関係自治体との調整を経て今年、本市で開催することとなった。サミットでは記念講演や国分寺跡所在自治体の首長によるパネルディスカッションなどに、その大きさや範囲がわかる

④[ICT教育の推進、教育委員会のガバナンス]

Q: ICT教育における予算も令和3年度に比べ、全体で2億ほどアップしている。これまで求めてきたICT支援員の拡充、授業支援ソフトや自動集計システムといった教員の多忙化解消の取り組みは評価する。特にICT支援員に関しては、令和3年度予算ではたったの440万で一人分の人件費でしたが、新年度は3億7千万と80倍の予算がついている。理由は。

Q: 教育委員会は市長から独立した機関であるので、教育委員会の事務の管理や執行について、市長がすべて会見で対応することは、限界もある。だからこそ教育委員会としての自力の情報発信が大切ではないかと思う。提案をしたいが市教委としてのメッセージが届きにくい現状を鑑みれば、ぜひ教育長の定例記者会見を求めたいと思うが、お考えを伺う。

A: 今年度は旅行としてICT支援員をGIGAスクール推進校5校に対して月2回程度訪問できる体制であるが、新年度は全市立学校に月4回程度訪問できる体制となるよう拡充することとしたためである。(教育指導課長)

A: 教育に関する広報はHPでの情報発信や、個別の事案に応じて教育委員会として記者発表を行うなど、時期を取らねた情報発信に努めていきたいと思う。今後とも教育委員会として、メッセージが市民の皆様によりわかりやすくタイムリーに伝わるよう情報発信に努めていく。(教育長)

猪又たかひろの議会で、質問の様子をいつでも確認できます。

詳細は「仙台市議会インターネット会議中継」で検索ください。